

風土記

第15回

八尾ベースボールクラブ

(大阪)

八尾ベースボールクラブは、大都市圏のクラブチーム特有の課題を抱えながら、NPO法人としてイベントの主催や野球教室など競技普及活動に取り組んでいる。この活動に賛同し、さまざまな球歴を持つ選手がチームに集う。

取材・構成／根本賢一

人生の教訓を学んだ 野球の楽しさを伝える

2014年11月9日、東大阪市営花園中央球場で第8回東大阪ベースボールフェスティバルが開かれた。このイベントは八尾ベースボールクラブ（以下、八尾BC）が企画し、例年「ボーイズリーグ東西オールスター戦」「八尾BCの模範試合」「少年野球教室」が生まれ、子どもから社会人までさまざまな野球関係者が集まり、交流を図っている。特に八尾BCの模範試合は強豪チームを迎え、高いレベルの試合を見せることで大人になっても硬式野球を継続する魅力を伝えている。

チームの代表を務める河島博は、

八尾BCの設立趣旨である「子どもから社会人までの活動の場を提供」「他地域チーム間での交流促進」「正しい野球技術の普及と技術の向上の取り組み」が、このイベントにすべて盛り込まれていると言う。

河島代表は高校硬式野球部の監督、コーチ経験があり、子どもたちが高校を卒業した後に硬式野球継続の希望に応える形で05年にチームを設立した。自身の人生を振り返ると、努力・忍耐・協調等多くの人生の教訓を野球により学んできた。その野球を通じた人間形成を社会貢献事業として取り組むためにNPO法人とした。そして子どもたちに野球の楽しさを伝えながら、大人になっても競技活動が継続できる環境を整備す

る。具体的には、移動野球教室、学童を対象にした八尾BCカップの主催、指導者講習会の開催等、多くの活動に取り組んでいる。この設立趣旨のもと、さまざまな球歴を持つ選手が八尾BCには集う。

それぞれの 野球人生の交差点

07年センバツで甲子園を経験しドラフト候補に名前が挙がった現エースの館山淳投手は、県立和歌山商高からNPBを目指して大阪ガスでプレーしたが、4年目にひとつの区切りをつけ野球から一時離れた。その間「自分が野球で何か恩返しできるものはないか」と考え、普及活動に取り組む八尾BCでプレーすることを決めた。企業チームとクラブチームを比較し「正直、プレーにおいては粗い部分はありますが、選手たちは職場が違いなながらも個々のつながりは深いです」と人との交流により、社会人として視野を広げている。現在も大阪ガスに勤務しており、八尾BCでプレーすることを理解してくれた会社への感謝も忘れていない。

八尾BCでプレーし、NPBの夢をつかんだ元千葉ロッテマリーンズの生山裕人の経歴は珍しい。大阪府立天王寺高校卒業後、進学した近畿大学では高い実績を誇る硬式野球部には入部せず、八尾BCに所属した。八尾BCの活動は原則週末のた

クラブ選手権出場へ挑戦は終わらない



め、平日は母校の高校グラウンドで練習に参加し、大学での講義の合間に筋力トレーニングやバッティングセンターに通い、練習を積み重ねてきた。その後、四国アイランドリーグのトライアウトを受け合格、2年目の22歳でNPB入りを真剣に考え、08年育成枠で千葉ロッテマリーンズよりドラフト指名を受けた。

「クラブチームや独立リーグの選択肢がなければ、NPB入りはなかったでしょう」と硬式野球を継続できる環境に恵まれたと生山氏は振り返る。二十歳を過ぎた遅い時期からNPB選手になる夢を追いかけたが「成功するまであきらめず、一つのことに取り組む大切さを学びました。信念や熱い気持ちがあり、目標に向かい工夫や努力をすれば、可能性があることを経験することができました」と生山氏が話せば、河島代表は、「彼こそ“夢叶うまで挑戦”した八尾BCの象徴です」と誇らしげに語る。

環境づくりと将来へのビジョン

八尾BCは、大都市圏に本拠地を置くため、グラウンドの確保に苦勞しており、日曜日はグラウンドを持つ大学生とオープン戦を行っている。選手の仕事の関係から活動は原則週末となり、毎日練習している大学生と対等に戦うには、個々の努力や工夫がある。39歳の仁井賢治内野手は「ベテランの経験から、試合でも



ねもとけんいち

1968年11月10日生まれ。千葉県出身。千葉日大一高-日本大-野球クラブ。現役時代は外野手で97年全日本クラブ選手権では準優勝を経験する。2007年野球クラブ部長に就任。その後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて、社会人野球クラブチームの運営方法を研究。13年3月修士課程修了。現在早稲田大学スポーツビジネス研究所 招聘研究員として活動中。



▲八尾BCカップの表彰式。河島代表よりカップが授与される
▶表彰式に訪れた田中誠太八尾市長（前列右から4人目）

効率よく対応できるようになった」と言う。高校生の頃から自主的に練習メニューを考え、遊び感覚のメニューや成長が分かるように数値化する等、練習を継続するための工夫をしてきた。

仁井内野手は、大阪府立天王寺高校では夏の大阪府大会ベスト8、高知大学では全日本大学選手権に出場し、いずれも公立校でありながら好成績を残してきたが、夏の大阪大会準々決勝では府立市岡高校に、大学選手権では京都教育大学のいずれも同じ立場の公立校に敗退し、強豪私立と対戦できなかった心残りを抱えプレーを続けている。平日は勤務終了後、可能な限りチームの室内練習場に寄り自主練習を行い、高校・大学とハンディを乗り越えてきた経験



▲館山投手は、普及活動に取り組みながらエースとして全日本クラブ選手権出場を目指す



▲08年千葉ロッテに入団した生山氏。一軍での出場機会はなかったものの、クラブチームからプロへの道標となった
◀限られた環境でベストを尽くす仁井内野手



前列左から3人目平田正司市議会議長（高15期）

から限られた環境でベストを尽している。

八尾BCにはさまざまな球歴を持つ選手たちの総合力で実績を残してきたが、全日本クラブ選手権の出場はない。近畿勢の過去10年間の全日本クラブ選手権の成績は、優勝6回・準優勝7回と強豪クラブがそろうため、この壁をなかなか越えられないのだ。河島代表は、今後の強化策として平日練習の充実を課題とし、選手の就職支援にも取り組み、全日本クラブ選手権初出場へのビジョンを明確にしている。

八尾BCのように多くの大都市圏に活動拠点を置くクラブチームは、グラウンドの確保や選手の生活拠点からグラウンドまでの距離に大きな課題を抱えている。これらの課題に対して、チームスローガンの通り“夢叶うまで挑戦”し、運営面での創意工夫により、夢の実現を目指して活動を続けている。

チームデータ&チームプロフィール

八尾ベースボールクラブ

所在地

大阪府八尾市久宝寺3-4-25

主な戦績

高砂市長杯洋優勝、近畿クラブ交流大会優勝、クラブリーグ大阪大会優勝2回

スタッフ

名誉顧問：田中誠太（八尾市長）
名誉顧問：野田義和（東大阪市長）
代表：河島博 高29期
総監督：豊田義夫
監督：山本雅一
ヘッドコーチ：松原理雄
投手コーチ：西川 勝
コンディショニングコーチ：杉本康司 高56期
アドバイザー：村井保雄、中本晋史
マネージャー：津邊完治、藤江美佳

部員数

高54期

30名

ホームページ

<http://www.5hp-ez.com/hp/yaobbc/page1>
大阪府八尾市と東大阪市を活動拠点とし、2005年設立、2006年日本野球連盟に加盟。多くの競技普及活動に取り組み、NPB選手を輩出した実績もある。